

横浜市立飯島小学校 5 年生は 12 月 6 日から、総合的な学習の時間を活用して、横浜市が「アクセンチュア株式会社」と進めている「オープンイノベーションの取組に関する包括連携協定」の一環として「課題解決型ロボットプログラミング教室」に参加した。



飯島小学校では昨年度より 5 年生の総合的な学習の時間に「ロボットプログラミング」を導入している。

総合的な学習の時間の 5 時間を活用し、全体学習 1 時間、基礎的なプログラミング学習とロボット作成 2 時間、応用的発展的なロボット作成と発表 2 時間である。

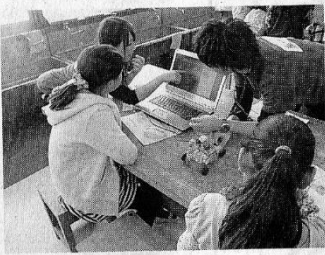


アクセンチュア株式会社と NPO 法人 CANVAS が所有する「ロボットプログラミング指導プログラム」を活用して、子どもらにわかりやすく指導をし、資料やロボット製作を支援するのは今年も情報科学専門学校の学生たちが担当した。

コンピューターやプログラミングの専門家である情報科学専門学校の学生が 2、3 名の児童にメンターとして若い学生が支援するという非常に恵まれた学習環境の中で、参加した子どもたちの表情がわかる楽しさに変わっていく様子学生が体験す

るといふ二重、三重の喜びがあふれている時間となった。

総合コンサルティングのアクセンチュアや情報科学専門学校(横浜市)は 9 日、横浜市立飯島小学校の 5 年生を対象に「課題解決型ロボット



プログラミング小学生に講義

アクセンチュアと情報科学専門学校

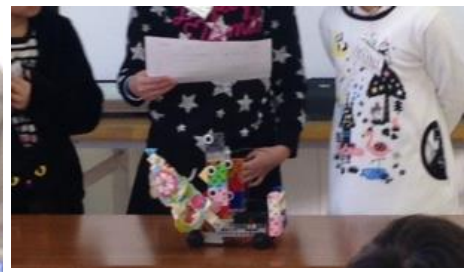
プログラミング講座を開いた。写真。子どもたちは数人のグループごとにアイデアを出し合い、独自のロボットを作った。アクセンチュアが授業の内容をつくり、19 人の専門学校生が相談・指導を受け持った。子どもたちは話し合いで「壁を拭く」「目の不自由な人が壁にぶつからないようにする」などの課題を決め、

「課題解決ロボ」組み上げ

必要なセンサー、モーターやコンピューターのプログラムを選び、ロボットを組み上げた。講座はプログラミング力に加え、コミュニケーション能力、課題解決力を身につける狙いがある。学生リーダーの近藤景太さんは「子どもたちには IT が楽しいものだと思うてもらいたい」と話す。

(2016/12/10 日本経済新聞)

写真は上からブロックでロボット作成、コンピューターにプログラミング、ロボットについて発表の様子



平成 30 年度に小学校で「プログラミング教育が必修化」されるが、「プログラミングを体験する」積極的な取り組みにより、「プログラミング教育」の準備をご一緒しませんか。

Robo*C の「課題解決型 ロボットプログラミング教室」は多忙な学校に新しい指導の形を提供するシステムです。学校は時間と会場を確保するだけで、その学校の実情に合わせてカスタマイズできるプログラムと器材、人材を用意して、各学校へ伺う、先生方に優しい出前教室です。

10 年後には現在の職業の半数以上がロボットに代わってしまうだろうといわれている未来という現実社会に生きる子どもたちが「プログラミング教育」を学ぶ第一歩を魅力的な場にできる Robo*C の活動をご活用ください。

(一般社団法人横浜すばいず:Robo*C 担当 古川三千代)